

# 世代間交流にチャレンジ!

福井県 越前町支部

「越前ガニ」や「越前水仙」が全国的に有名な越前町。  
 まさに蟹のシーズンを迎えた平成29年11月30日(木)。  
 越前町支部の皆さんが、県立丹生高等学校の生徒さんと地域活性化について考える  
 「ワールドカフェ」を開催するとお聞きし、取材に伺いました。

ワールドカフェとは  
 カフェのようなリラックスした雰囲気の中で対話をする手法。  
 会議やグループ討論に比べ、  
 参加者から自由な意見、創造的な発想を引き出すことができるというメリットがあります。

## 若者とコミュニケーションを

越前町支部は一昨年、織田町支部、越前支部をもとに、支部のなかった近隣地域(旧宮崎町、旧朝日町)まで活動エリアを拡大し誕生。越前町全体として新しく出発しました。杉森正義代表はこれを機に、新たな活動をし支部の活性化につなげたいと考えていました。また日頃から、高齢者と若者などの異なる集団や世代間に「見えない壁」を感じ、もっと若い人とコミュニケーションを深めたいという思いもありました。

そこで、丹生高等学校の山口明彦校長に相談したところ、「ワールドカフェ」という対話の手法を提案していただき、「世代間交流へのチャレンジ」が実現しました。



## 地域の活性化を考える

高校生4~5人のグループに大人1名(支部役員と関係者)が入り、まずはウォーミングアップ<sup>\*1</sup>。高校生た

ちは初めてのことに緊張気味で、50個も答えを書くことに大苦戦。山口校長が、「お菓子を食べながらでもいいですよ。もっと頭をやわらかく!」と呼びかけます。

続いてメインテーマの「越前町、こうなったら面白い!」と思うものを模造紙に書いていきます。何度か席を移動し他のグループのアイデアも聞きながら、どんどんアイデアを膨らませ、「学校までジェットコースターで行けたらいいなあ」「グルメ博みたいなイベントをやったら楽しそう」「山の中にアスレチックをつくりたい」等々。現実的なことから突飛なものまで、様々なアイデアを出し合いました。

ワールドカフェでは、自由な意見や発想を引き出すことが重要なので、結論は出しません。まとめは、それぞれのグループのリーダーが、自分が一番面白いと思ったアイデアを発表するだけにとどめていました。

最後に、大人たちが普段の仕事や「小さな親切」運動について話す時間も設けられました。ふるさとを愛する気持ちは、大人も高校生も同じ。日頃から地域のために活動する皆さんの想いが、必ずや高校生たちに届いたことでしょう。



※1  
**まずはウォーミングアップ**

① 越前町に「ないもの」を50個答えよ!  
 ② 越前町に「あるもの」を50個答えよ!



**50個も  
 書けないよー!**



## 将来の福井県を担う高校生たち

今回ワールドカフェに参加してくれたのは、「中高一貫連携クラス」の1年生。福井県を担う人材を育てる「ふるさと教育」に力を入れているクラスです。驚いたことに、このクラスの第1期の卒業生は、現在社会人3年目になりますが、約8割が県内で働いているとのこと。参加した高校生たちも、将来ふるさとでの活躍を期待されています。もしかしら、ワールドカフェで出たアイデアを実現させる生徒さんが出てくるかもしれませんね。